

令和7年度 第2回磐田市総合教育会議 会議録

日 時：令和7年10月7日（火）午後1時30分～午後3時

会 場：磐田市役所 本庁舎1階 第1会議室

出席者：市長、教育長、鈴木好美委員、秋元富敏委員、阿部麻衣子委員、大橋弘和委員
(出席者6名)

事務局：企画部長、教育部長、政策推進課（課長、総合戦略グループ長、担当）
教育総務課（総務企画グループ長）

傍聴者：なし

【会議次第】

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協 議 事 項

（1）教育大綱の再確認について

4. 閉 会

〔協議の主な内容〕

発言者	発言内容
政策推進課長	<p>ただいまより、令和7年度第2回磐田市総合教育会議を開会いたします。会議に先立ちまして、皆様にご案内します。総合教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、原則公開とさせていただいており、会議録等につきましても要点をまとめた上で、市のホームページで公開をさせていただきますので、ご承知のほどよろしくお願ひします。</p> <p>それでは、開会に当たり市長からご挨拶をお願いします。</p>
市長	<p>皆さんこんにちは。めっきり涼しくなってきまして、各地ではお祭りが行われて、子どもたちの元気な姿を見ることができます。</p> <p>先日、母校の磐田南小学校で授業を行いまして、とにかくいじめは駄目だというような話を厳しく、駄目というより、いかにカッコ悪いかという話をしてきました。5年生か6年生ぐらいになったときに、僕や教育長みたいな、それなりに肩書がある人が行って、先生とは違う人がそういう話をすることのほうが、効果があるかもしれない、手応えを感じましたので、手分けして、これから学校に入ってきたいなど感じました。</p> <p>子どもたちが将来の夢みたいなものは今まで以上に持ちにくくなっているのかなど感じています。それは当たり前ですけど、大人が、AIによって君たちの仕事は将来大分なくなるぞ、みたいな話をしているので、どんな環境になってもたくましく、しなやかに生きていけるような若者たちをどうやって育成していくべきなのか。</p>

まさに今日はその根幹である教育大綱っていうものを皆さんで対話をしながら決めていきたいと思っています。

これと同時に磐田市では、こども憲章がございますが、この合併 20 周年に合せて、こども憲章の見直しをこども部で行っています。子どもたちを中心に、自分たちの暮らしをどうやって改善していくのか、ルールを決めていくのか、活発な議論を3回4回ぐらいワークショップやりながら決めていただいている。

今日1日で決まるかどうかはともかくとして、私たちもやっぱりそれぞれが議論していくことが大切と思いますので、今日もよろしくお願ひします。

政策推進課長 この後の会議の進行は、議長を市長にお願いしたいと思います。

市長 それでは協議事項に入ります。今日は先ほど申し上げましたように大綱の再確認ということあります。前回の会議の中で、大綱、道しるべ、こども憲章の位置づけについて協議した結果を受けて、今日の会議で、大綱の4年に1度の再確認を行って、前文、それから6つの培うについて変更が必要かどうかも含めて協議することになりました。今日は皆さんに忌憚のないご意見をいただきたいと思います。事務局がたたき台を作成しているので、事務局からたたき台の説明お願いしたいと思います。

政策推進課長 それでは資料についてご説明します。1ページ目につきましては、第1回の会議のまとめを記載しています。第1回では「教育大綱」、「磐田の教育 “道しるべ”」、「こども憲章」について、それぞれの担当課から理念などを説明し、ご意見をいただきました。その結果、磐田の教育“道しるべ”は教育委員会で整理をしていき、

こども憲章については、今年度 10 年の節目となり、合併 20 周年記念式典でのお披露目に向けて、心得の部分の見直しをしていくと説明がありました。そして、教育大綱については、市長の任期に合わせて4年に1度の再確認を行うこととし、今年度は、前文と6つの培うについて見直しの必要性があるのかどうかも含めてご協議いただくこととなりました。

それでは資料「教育大綱の再確認について」をご覧ください。下の部分には、「教育大綱」にかかる主な意見を5つ記載しています。「培其根」の理念に基づいていることが分かるようにすることや「培う」を残しつつ、6つを整理すること。共創の言葉を入れたほうがよいといったご意見がありました。また、当時の関係者の思いを大切にしたいとのご意見もいただきました。次のページからは、本日のご協議のたたき台として、第1回で上がったご意見を踏まえて、前文と6つの培うについて、事務局で作成した整理表となります。次のページには前文を記載しています。上が現行の部分で、下が見直しの案になります。下に「培其根」「共創」「社会変化への適応」を盛り込んだことをポイントとして整理をしています。3ページ目には、6つの「培う」を整理した表になります。左側に減らした場合、中央に現在のもの、右にその他に考えられる「培う」の候補を記載しています。その下には改良点や懸念点を記載しています。左側の減らした場合は、4つの近くにまとめる案です。もともと意味合いが近い、「礼節を培う」、「感謝を培う」を「敬愛を培う」に含めてしまうものです。数が減ることで、覚えやすくなりますが、減らすことについて関係者の理解を得ていく必要があると考えています。中央は現在

のままの場合で変更に伴う影響がないですが、さらに多くの人への浸透を考えた場合、覚えにくいといった点や、現代教育との関連性が分かりにくいといった課題が考えられると思います。右側は「培う」の新たな候補を記載しています。今の6つの「培う」を入れ替えることや、追加する候補として挙げています。これについても関係者の理解が必要になると考えています。あくまでもたたき台になりますので、皆様からご意見をいただけたらと思います。

市長 資料についてまず質問があればお願ひします。この後、前文とか「培う」それぞれについて確認をしていこうと思っています。資料については、特にいいですか。それでは、ここから前文の確認をしていきたいと思います。

現行に対して見直しということで、前文の現行と見直しについて、事務局から説明をお願いします。

政策推進課長 下が見直しのところになりますが1番下にポイントとして3つ、整理をする項目を掲げています。1回目の会議でご意見いただきました「培其根」を明記すべきではないかというところで、最初に、そのことについての記載を入れさせていただいている。教育者の東井義雄先生のお名前も入れたところ、あと「培其根」を出しながら、そういう理念のもと下記のとおり目指します、というところから始めさせていただきました。3行目になりますが、ここ10年間でも社会の変化っていうのは大きくありましたので、それも分かるように「変化の激しい現代」を加えさせていただいている。その下は、事業者と「共創」っていうワードを入れましたが、共創の相手先として、学校、地域、家庭がありましたが、民間の方、外部、事

業者の方も含めて、関わりを持ってやっていくべきではないかというところが「共創」の理念になってきますので、事業者という言葉も追加をさせていただいています。この事業者は最後のほうにも入れています。以上が前文の見直しの案になります。

学府について、現行の4行目に、学府を核とした新時代の教育コミュニティというところがあります。ここを「共創」に置き換えています。

それと、この教育大綱の対象ですが、総合教育会議自体が市長事務局で持たせていただいている。ただ、当初つくるときも今回もそうですが、やはり教育に教育委員会は外せないですし、社会教育っていうところもあります。社会教育については市長部局で所管していますが、全体のところは、どうしても学校教育が大きな対象となると考えています。義務教育だけではなく、その延長線上にある高校生も対象とした学びも進めていますし、それ以外にも、まちライブラリーっていうことで本をきっかけにした人づくり、地域づくり、人との関わりっていうようなところも意識しています。そういったところも含めると、小中学生を柱としながら、高校生、地域の方、大人、社会人といった方も含めて対象と考えています。

市長 対象がなかなか広いですね。対象がぶれると、全くずれてしまいます。対象についての考え方とか、社会教育、学校教育っていうキーワード出てきて、高校生っていうキーワード出てきました。その考え方の整理をしたいなと思います。社会教育、生涯学習、学校教育などの相関関係はどのようになっていますか。

教育長 理念として生涯教育で、あとは場として、学校とか家庭とか地域社会が入って

いるイメージです。教育委員会の事業も、どうしても学校教育の中心になりますが、やっぱりその生涯教育の図書館とか、文化財まで含めると、幅広な対象になるのかなっていうところはあります。ただ、学校の立場からすると広げ過ぎるとぶれちゃうどこもあるなと感じます。

市長 そうすると前回のときは、「まちづくりを目指します」と言いながら、「生き抜く力を育成します」っていうところは子どもたちに向けて言っているような感じですね。

教育長 多分当時は小中一貫教育、学府、コミュニティスクールがスタートした時点だったので地域コミュニティとかにフォーカスされているイメージはあります。どちらかというとやっぱ子どもたちが中心かなっていう感じですね。

市長 そうすると、今回のこの理念は、包含してつくるということですね。

委員 生涯学習基本方針を見ると「磐田市社会教育の基本理念」イコール「磐田市教育大綱の基本理念」となっていますが、それを変えるということですか。

市長 それは変えてもいいと思います。

委員 今の大綱が、生涯教育的な大綱だとは思うので、人としてどうあるべきかが網羅されていると思います。

市長 皆さん、ざっくばらんにご意見いただけたらと思います。まずは、前文からお願ひします。作成当初は「まちづくりを目指す」って言っているので、こういうまちづくりを目指しましょうっていう中で、こういう教育をしていきましょうということだと思います。

委員 現行の前文の「子育て、教育なら磐田」ですが、作成当時、議論に参加してい

るときに教育について感じていたのは、家庭教育と学校教育中心だということでした。

社会教育についても話がありましたが、そこは社会教育の部門に任せてあって、どちらかというと、学府一体校を中心とした2つをフォーカスした内容に重きを置いていたということだと思います。そのとき、社会教育が大事じゃないかとか、生涯学習の時代なので、社会に出てから勉強でやり直すことも必要だし、そういうような話もありました。今回のたたき台の前文には「本市の教育は」と入っているので、今回は全てを網羅した教育を指しているのではないかと捉えました。そして、この培其根の説明を入れてあって、これはものすごく大事なことだと思います。ここが1番大事なことだと思います。この3行目まで、かなり上手にまとめて書き直してあり、現代に合わせているかなという気がします。この「変化の激しい現代社会」これからますます先が見えなくなっていく時代だと思います。でも、昔も人類は、そういう時代を生きてきましたし、このように変えてっていただいた方が良いと思います。

4行目以降のこの「事業者」という言葉ですけど、私は「地域」に入るかなと思っています。地域の中の一部なのでここをあえて入れる必要があるのかなと思います。やはり「学校」「地域」「家庭」の順番も、「学校」「家庭」「地域」の方がいいのかなとか、やっぱり地域の中の事業者が、こういう方も含めていろんな方、みんなで教育コミュニティをつくっていくものだよ、ということを言っていると思いました。いろんな方が学校に入っていただくということが1番大事なことだと思うの

で、学府という言葉よりも、分かりやすくすることが必要かなと思いました。ですか
ら全体的な流れはこれがいいと思います。

市長 いいご意見ありがとうございます。

ほかはいかがですか。キーワード出しありたいな、頭の中でみんながもやもやし
ているものを口で言語化して整理していきたいと思います。

教育長 今委員さんが言ってくれたようにその「変化が激しい現代社会」っていうところ
はもちろん、これから生き抜いていく、それは子どもたちもそうだし、我々もそうだ
と思うので、そこまではそのとおりだなと思います。ある意味、地域づくり、場づくり
をさっきの社会教育、家庭教育、学校教育、どこにおいてもそういう環境づくり
が必要になってくるので、学びの場としてつくることはそのとおりだと思います。ま
た、個人的には、今の流れの中で例えば多様性とか、一人一人の育つ力とか、可
能性とかが大切だと思います。今の6つのキーワードが示している内容だけだと
なかなかイメージがつきにくいので、この前文の中に全部なのか、後段の部分に
なるのか分からないですけど、もう少し具体個別なキーワード的な文章が入って
くるといいなと思います。

大綱を一つの足がかりに学校教育の中でも意識してよっていうメッセージにも
なっていると思うので、現状この理念だけだと、なかなかその具体的なところまで
言及し切れないで教育につながるキーワードが入るといいと思います。

市長 人間像としては、「命を精一杯生きる」「人づくりの精神と伝統文化の未来へ
の継承」「生涯にわたり変化の激しい現代社会を生き抜く力」の3つ。あとは、

	「多様性」「可能性」「一人一人が育つ力」が出ています。皆さん入れたいキーワードはありますか。
委員	私自身は今の教育は、大きく3つだと思っています。個々に合った力を伸ばす。育てる。それらの個性、個々の力を結集させて、みんなで新しいものを創造する。1人でやれる範囲は、限られているし、今新しいものを想像するには個の力だけではちょっと難しい時代なので、いろんなアイデア、多様性を生かすということだと思います。そういうところで新しいものを創造していく。あとはグローバル化の時代なので、国際感覚とか、そういう世界感を踏まえて、いろんな人の力を借りて、磐田のためだけじゃなくて、世界のためにというか、グローバルかなと思います。
委員	私はリカレント教育っていうか、学び直す。失敗した後、立ち直るっていうことです。レジリエンスとか学び直し、リカレント教育。
委員	自己有効感や自己有用感、自分が自分で合っていいとか、自己効力感とかがあると思います。
市長	言い換えるとどんな言葉になりますか。自分が自分らしくとか。
委員	自分のことを認められる。多様性とともに含めて自分を大切にするとか。自信が無くても、自分を思い詰めず、自分のことを大切にして欲しいです。
委員	しなやかな逞しさ、レジリエンス、強い心がキーワードだと思います。
市長	自分に置き換えたとき「伝統文化を未来への継承」と言わされたときにやりましょうとか言われてもとなかなか自分事に思えないですよね。「今を一生懸命生きましょう」というのはすごく自分事に感じられますけど。未来への継承となると急

	に重たくなりますよね。
委員	出会いと気づきみたいな人と人が会って変わっていくと思います。
市長	2行目3行目がやっぱり重要だと思います。このキーワードを思い付く人はいませんか。4行目5行目は場づくりになっていると思います。
委員	私は、教育大綱を変えることが重いと感じています。皆さんすごい時間をかけて作ってきたものなので。その大綱が変わることによって、前文が変えられるものだと感じていますが、前文から6つの「培う」にビルトアップする理解でいいですか。
市長	手法はどちらでもいいと思っています。前文が前にあるので前文からやっています。あとから削ることができます。
委員	前文にはたくさん盛り込めますよね。
市長	前文を分解すると2行目、3行目に人間形成が込められていて、6つの「培う」と連動しているものだと思っています。
	2行目、3行目と6つの「培う」をまとめてキーワード出してやっていいのではないかと思うので、前文から6つの「培う」に入るものがあるかもしれないという前提でキーワード出ししたいと思います。
委員	命からはじまって、誇りには自己有用感とか自己肯定感とか自信とかに繋がっていると思います。
委員	対象は、生涯教育ということでいいでしょうか。
市長	そうです。小中学校に限らず、おじいちゃんもおばあちゃんも若者もです。

委員	そういうのが教育大綱ということでいいですね。全員ですね。 学習的にはどうでしょうか。学習という言葉がないですか。学ぶという言葉は入らないでしょうか。学びの場として、教育大綱にいれないのでしょうか。
教育長	学びという言葉は、概念として離れているので近づけたいという思いがあります。
委員	各世代どこでも学習しましょうっていう生涯学習などがあると思います。
委員	教育大綱をみなさん、子どもや大人やおじいちゃんやおばあちゃんに浸透させたいですか。懸念点として浸透させるのに十分な説明が必要と書かれていますが、広めていきたいものでしょうか。それとも前文として磐田としてこういうことをしていくよっていうことを知ってもらいたいのでしょうか。
	生涯教育って考えると大きすぎて、子どものことを考えると、前文に磐田の進みたい方向を分かりやすい言葉でいれていきたいです。
市長	そもそも道しるべが義務教育の理念的なものでした。大綱と両方あるのでわりにくいものになってしまうので、前文みたいなものだけで、「6つの培う」をやめてしまうことも方法なのかなと思います。具体的には、道しるべと、こども憲章に割り振ることもあるのかなと思います。
教育長	道しるべの方が大綱より先にできていて、徳目を参考にしています。
教育部長	広めていくっていう意味では、大綱の方が良いので、説明を前文に載せるのか、作っている想いを前文に載せて語るのか考え方が大切だと思います。
企画部長	命を培う、誇りを培うって、何を目指しているのか分かりにくいので、1個1個に

	何を目指しているのかを記した方がわかりやすいのではないかと思います。
	命を培うは、こういうことをを目指していく、誇りを培うは、こういうことをを目指していくといったことが分かるようにしたら分かりやすいのではないかと思います。
市長	前文、「6つの培う」のほかに説明文を増やすってことですか。
企画部長	増やすわけではなく、分かりやすく記載するものです。
委員	「命を培う」、かけがえのない命を精一杯生きること、のような形でしょうか。
市長	道しるべの「勤労・勤勉を喜びとすること」は、生涯学習ですかね。
委員	最終的には、働いてくれる人を育てたいからではないでしょうか。
教育長	22項目の徳目を入れているのではないかと思います。
委員	私は、子どもが磐田の道しるべを持ち帰ってきたとき、「真善美に照らし正しい判断をすること」がすごく心に響きました。子どもには、響いていませんでしたが。
企画部長	教育大綱は道しるべの上に行かないといけないので、すべてを網羅しないといけないってことですよね。
教育長	他のところはすごく具体な内容になっていますが、うちは理念になっています。前文か後文に具体的な内容を示して、教員にも伝わる内容だといいと思います。
委員	他市では、細かな施策的な内容が書かれています。自己有用感、自己肯定感、共創に関する記載があります。
教育長	磐田市でいくと、自己有用感や自己肯定感は、「誇り」に含まれていますよね。教育大綱の礼節以外は、道しるべから持ってきてていると思います。
教育部長	磐田市のものは、短くて「大綱」としての風格がある印象があります。

教育長	6つの「培う」は、大きく掲げて、具体な内容は、どこかにいれるほうがいいと思います。
委員	東井義雄先生の内容が記載されたことで分かりやすくなりました。
委員	私は、事業者って書いたほうがいいと思いました。
委員	地域っていうと何か自治体みたいなイメージで、自治体っていうと地元のひとつっていうイメージもあるので、もっと外部からってことですね。
委員	当時この教育大綱をつくる中で、会津藩の什の掟っていう話もしていて、子どもたちにとって、「ならぬものは、ならぬ」といったそういう大綱がいいね、とされていました。
市長	そもそも教育大綱の理解は我々がその環境をつくりますっていう宣言ではないかなと思っています。いわゆる市や教育委員会はこういう環境をつくり出しますっていう約束、大人の誓いみたいなイメージが近いと思っています。のために、政策をぶら下げていくのはどうかと思います。子どもたちに守らせたいことじゃなくて。
教育長	市の方針だと思います。
委員	ほかのまちで、図書館を建てます、を大綱にしているところもありました。
市長	市としての方針なんでしょうね。今、事務局案として、礼節と感謝をカットしている。つながりを培う。というものもあります。
企画部長	何を目指してのって、分かったほうがいいのかなって思います。 2段書きにするのか、注釈で後ろにつくるのか、それはいろんな方法があると

	思いますが。
委員	培うって言葉は辞書で引くと、長い時間をかけて、いろいろ能力とかを大切に育てる事と、いうような意味合いで書いてあります。すごい時間をかけて、つける力だと思うのでやっぱり枕言葉にする言葉って、それに合う言葉じゃないといけないと思います。
教育部長	事務局の「培う」の案は、軽い感じがして重みが違うと感じます。それぞれの言葉としては、いいんだけど、やっぱり重みがちょっと違う。組み合わせるのが難しい。冒頭あった、いのちを培うから、そのシナリオというか、流れがある中に、ちょっと浮かんだ言葉をどう入れるのかっていうことも非常に難しいと思います。
市長	「こころざし」を平仮名にしたのには、理由がありますか。
委員	「いのち」「こころざしは」はわざと平仮名にしました。
教育長	「いのち」は身の命だけではなく、幅広の「いのち」だと思います。一人一人を大切にするとか、ただ単なる「いのち」ではないと思います。
市長	多様性みたいなものでしょうか。
教育長	解釈はどういう意味を込めているかは、わからないですが。
市長	一つ加えるのであれば、「絆を培う」っていうのはあるかなと思っています。それで支え合いみたいなところとか。ひとりと相手と含められるかなと思います。
委員	絆は漢字でしょうか。
市長	そうです。一文字だったから平仮名っていうシンプルな理由だと平仮名ですか。

委員	生命ではないから「いのち」ですよね。
市長	前文であげられていたもので、培うにいれられそうなものはありませんか。自己有用感、自己効力感はどうでしょう。
教育長	誇りですね。
市長	国際感覚、多様性はどうでしょう。
教育長	多様性はいのちじゃないかなと思いますが。前文であげられた多様性は少し違って一人一人の違いをみんなで認め合って共創で作りあげていくものです。
市長	培うでいうとどうなんでしょう。
委員	敬愛かなと思います。
市長	敬愛から多様性にはイメージできないですね。言われればって感じです。
委員	今の「培う」もいいですが、新たなものを入れてもいいのかもしれないですね。
市長	皆さんと心合せができていると思っています。言葉を選んだり削ったりっていう作業を3月の年度末には確定したいと思いますので、これから定例協議の中で少しその時間を持っていただきたいと思います。
委員	市長は、理念大綱としてもいいと思っていますか。
市長	市と教育委員会としての方針を一致させていくっていうのが大綱だと思っていて、自分たちの磐田市としての教育のありたい姿を描きたいと思います。ここに大体出てきていると思っています。培其根は好きだし、外すということは考えていないし、話を聞けばなるほどと思ってそこからずっと使っています。前文に培其根の記載がされるといいと思います。とにかく分かりやすくしたいです。

子どもから大人まで磐田の生涯教育はこれを大事にしていると。説明に教育大綱を入れようすると6個っていうのが多くて、大体4つくらいまで出てくるんです
が、最後までたどり着かないです。

教育長 礼節、敬愛がなかなか出てこないですよね。

市長 今日、出てきたことが前文に入れるのか、培うに入れるのかっていう作業が必要なのかなって思っています。

教育部長 一度教育委員会で預かるということでいいですか。

企画部長 教育委員会は教育委員会で議論してもらって事務局は事務局で考えてぶつけ合ったらどうかと思います。

市長 そうしましょう。責任は重大であることは間違いないし、我々が決めるっていうことは、もうこれからやっぱり定期的に見直すと言っても、きっとまた10年ぐらいはそのまま行くでしょうから、あと市長が変わったりするとまた見直しがあると思います。重要な教育、方針を決める大綱なので、今日出てきたことも含めて検討をお願いします。今日の協議事項は、以上にしたいと思います。

その他、次年度予算に向けたことなど伝えたいことはありますか。

教育部長 不登校対策とか、外国人児童支援にも大きな課題があって、相談をかけさせてもらっています。市として、課題解決をしていきたいと思います。

市長 NewsPicksを運営するユーザベースっていう会社と連携協定を結びましたけど、それはもう本当に最先端を学ばせる機会っていうことを磐田市でつくって首都圏の子どもたちとの教育格差みたいなものをなくしていきたいと思います。

市内企業の社員さんとかから言わせると、磐田じゃなくて浜松や名古屋から通うみたいなことを言われているので、磐田の教育環境がいいからって選んでもらえるための取組、英語教育とか目玉出しをしておいて、やっぱり磐田の教育は、ほかとは違う、いい教育をやっていることを伝えていきたいと思います。あわせてユーザベースさんが来たときに自然環境は関東よりこっちのほうが圧倒的に優位なので、四季を感じる力だとか情緒的なところは絶対田舎のほうが伸びるので、情報と情緒みたいなところの合わせわざで、磐田の教育っていうのをさらに高めていきたいという話をさせてもらいました。

委員 発信をしかりしていきたいですね。

市長 今日出た事業者っていうのは、まさにユーザベースさんは磐田の企業ではないので、そういうところといかにやっていくか、情報を持ってくるかっていうことは、実は大切にしているところです。では事務局にお返します。

事務局 ご協議ありがとうございました。第3回目を予定していますが、日程・会場については改めてご連絡しますのでよろしくお願ひします。その間、今お話ありました大綱についての見直しのご協議を教育委員会でよろしくお願ひします。